

新春を迎えて



二松學舎大学
父母会報

平成 5 年 5 月 10 日創刊
平成 29 年 1 月 20 日発行
(第95号)

二松學舎大学父母会
(本部・事務局)
東京都千代田区三番町6番地16
二松學舎大学学生支援課

題字は
故 観山貞廣常吉先生書



父母会長
渡邊勝文

新年明けましておめでとうございます。
父母会の会員の皆様におかれましては、穏やかな新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。昨年は、皆様方のご協力、ご理解の元、父母会の活動を順調に進めることができました。謝申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、地区別父母懇談会を六月から七月まで、八会場で約三〇〇名の参加を頂き実施しました。この懇談会で父母会の会員の皆様方からいろいろなご意見を賜り、今後の活動の糧としたいと考えております。さらに、例年のとおり、十月末の創縁祭での無料喫茶の開催です。これも二日間で約二六〇名のご来場を頂き、ご来場の方々から大変喜んで頂きました。

また、今年度から松苓会で水曜日・木曜日に実施して頂きました一〇〇円朝食を十一月〜一月まで、父母会でも追加で、月・火・金と試行実施させて頂き、松苓会様と協力の基、全ての曜日で一〇〇円朝食を実施してきました。日を重ねる毎に食数も少しずつ増えてきています。学生の健康管理の面からも継続して遂行できるよう父母会として検討したいと考えております。

私が一番関心があるのが、昨年も問題となりました、ブラック企業の問題です。当大学の学生の就職先には、このような企業はないと考えていますが、もし、このような企業であれば就職をさせてはいけませんし、それを阻止しなくてはなりません。それには、大学の教授先生や法人の役員の方々、さらに父母会の会員からの情報が必要と考えます。もしそのような情報がありましたら、ご一報頂ければ幸いです。

今年度の卒業パーティも父母会の主催で実施させて頂きましたが、会場を「ホテルグランドパレス」で行います。最後になりましたが、今後も役員一同一丸となって事業を取り組みますので、引き続きの父母会に対し、ご理解、ご協力をお願いします。

皆さん、明けましておめでとうございませう。

本学は本年創立140周年を迎えます。周年記念に因み、年頭に当たり、創始者三島中洲先生(以下中洲)を偲びつつ、二松学舎の歴史を簡単に振り返ることとします。

中洲は、天保元年、備中窪谷郡中島村に生まれ、14歳で備中松山藩儒の山田方谷(以下方谷)に入門、陽明学、漢学を学びます。22歳で津藩の『和洋折衷』を広めた斎藤拙堂のもとに遊学。24歳、黒船来航時浦賀に出向き、著した書物「探辺日録」が認められ、松山藩に仕官、その後江戸に遊学、昌平坂学問所に入り、遊学中、玉乃世履、川北梅山、吉田松陰等と出会います。その後松山藩

主板倉勝静の下、方谷の片腕として活躍します。方谷の実業の才を傍でみた中洲は「君子は利益を賤しむのではなく、義に則った利益の得方・使い方が必要」とする「義利合一論」を唱和するきっかけを掴みます。維新後、明治政府から徵命を受け、新治裁判所所長、東京裁判所大審院判事と経験を積むなど漢学者のほか、法律家としての横顔が垣間見えます。48歳で廃官した中洲は、同年10月に『漢学塾・二松学舎』を創

設します。漢学塾創設時は、文明開化の名のもと、西洋文明を取り入れていた時代です。その中で、あえて漢学塾を開学、東洋学の確立と新時代を担う国家有為の人材育成を目指したのです。

漢学塾の講堂の壁には、「二松学舎 舍則」が掲げられ、そこには「漢学ノ目的タル、己ヲ修メ人ヲ治メ、二世二有用ノ人物トナルニ在テ、記誦詞章ノ一儒生トナルニ在ラス。」「故二仁義道徳ヲ以テ基本トナサ、



創立140周年を迎えて、さらに前進を

学校法人 二松學舎

理事長 水戸英則

ており、キャンパスライフの冒頭に記載されています。

明治14年頃は、漢学塾が東京に一つしかなく、陸軍士官学校や司法省法学校等が漢文を試験に課していたため、塾生が押しかけ、本塾のほか梅塾、柳塾が増築されます。夏目漱石が入塾したのもこの頃です。その他著名な卒業生としては、犬養毅元総理大臣、日本オリンピックの父と称される嘉納治五郎、女性の権利獲得に奔走した活動家の平塚雷鳥など

ル可ラス。是経書ノ課アル所以ナリ」とありました。これは平成24年本学が135周年を迎えた時に策定公表した長期ビジョン「N2020 PLAN」の育成する人材像の元となった言葉です。この言葉の現代的解釈は、「日本に根差した道徳心を備え、自ら考え行動できる能力を鍛え、社会のために貢献できる真の国際人を養成する」ということであり、現在の二松学舎大学の「建学の精神」であり、育成する人材像となっ

多くの著名人を輩出しました。その後明治政府の「中学校令の施行」等近代的学校制度の導入や中等教育での漢文廃止の措置から入塾者が激減、明治36年、二松義舎が設立されるなどの経過を辿り、昭和3年、文部省所定の中等学校国語漢文科教員養成を目的とする「専門学校」となり、発展していきます。その後同23年、二松学舎附属高校が開校。翌24年、専門学校は、文学部国文学科(定員70名)、中国文学科(定員

30名)を設置する新制大学へと移行、同44年、附属沼南高校が開校、そして、平成3年には、国際政治経済学部が開設されました。平成22年大学九段キャンパスが完成。同25年、創立135周年を機に長期ビジョン「N2020PLAN」を公表、現在アクションプランを実行中です。そして本年創立140周年を迎えました。今年、4月に文学部の67年ぶりの新学科、都市デザイン文化学科(定員50名)がスタート予定であり、また国際政治経済学部も25年ぶりに、新学科、国際経営学科(定員80名)の開設を文部科学省に申請中など、本学は常に前進しております。

とした、新しい中等・高等教育を展開していきます。その目標を達成するため、次の世代を展望した「N2030PLAN」をこれから検討していきます。そのコンセプトは「原点に戻って、未来を考える」!その目標は「東京の中堅私大から一流私大へ」というものです。皆さんの引き続きのご支援・ご協力をお願いする次第です。

スチューデントファーストとの考え方の下、本学は「知識、スキル、行動の主体となる人格形成」の三位一体を目標

といた、新しい中等・高等教育を展開していきます。その目標を達成するため、次の世代を展望した「N2030PLAN」をこれから検討していきます。そのコンセプトは「原点に戻って、未来を考える」!その目標は「東京の中堅私大から一流私大へ」というものです。皆さんの引き続きのご支援・ご協力をお願いする次第です。

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

新年を迎え、保護者の皆さまのご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

本年10月10日に、本学は創立140周年を迎えます。140周年を記念してさまざまな事業が企画されておりですが、皆さまも既にご存知のように、昨年12月には夏目漱石アンドロイドが完成致しました。これは大阪大学基礎工学研究所と本学文学研究科の共同プロジェクトで、夏目

漱石の伝記的研究のほか、社会におけるアンドロイドの受容や人間との共生の可能性などの研究が期待されております。

さて、本学の歴史を振り返ると、明治10年に漢学塾として創立されて以来、時代

の変化の中で社会のニーズに応えながら大正、昭和そして平成の今日に至ったことがわかります。漢文・漢学が知識人としての素養であった明治から大正にかけて、二松学舎は多くの塾生を抱え都下の三大塾と称されるほどでした。司法省法学校、陸軍士官学校などが漢文を入試に課していたこともあり、塾生には司法官や軍人の志望者が多かったと言われます。昭和3年には、中等学校国

語・漢文科教員養成を目的とする二松学舎専門学校となり、優秀な人材を養成して教育界に送り「国漢の二松学舎」と謳われるようになりました。そして昭和24年、新制大学二松学舎大学に移行し、中国文学科と国文学科の二学科からなる文学部だけの単科大学として出発致しました。「国漢の二松学舎」は健在で、戦後も数多くの国語の教員を日本全国の中学校、高等学校に送り出して来たのみならず、中国文学、国文学の研



年頭所感

— 魅力的な教育を目指して —

二松學舎大学

学 長 菅原 淳 子

国際社会を理解し、国際社会に貢献できる人材の養成に着手したのである。国際政治経済学部卒業生は、公務員をはじめ、国内外のさまざまな分野で活躍しています。

そして本年4月、文学部に都市文化デザイン学科が開設されます。文学部がこれまで培ってきた日本の文学や文化の研究を基礎に、都市や地域で形成される新たな文化や社会現象を研究し、研究の成果や日本文化の新しい魅力を発信していくことを

究者や書道家も多数輩出して参りました。この伝統は現在まで引き継がれております。

このように本学は長いこと日本の教育界に大きく貢献して参りましたが、平成3年、新たに国際政治経済学部を創設いたしました。戦後の冷戦が終結し世界がグローバル化へ向かう中で、日本のみならず国際的な政治情勢、経済事情そして法行政に

設置を検討しております。140周年を迎える本年、このように本学では両学部共により魅力的な学部を目指して、改編のただ中にあるといえます。

学部学科の再編に加えて、本年、本学が力を入れようとしているのがグローバル化への対応です。これまでも外国語教育の強化を進めて参りましたが、両学部においてそのさらなる充実を目指して参ります。学生の短期・長期の留学を今まで以上に

目的とした学科です。多様なメディアの特性を学びながら、ICTを駆使した情報発信の技能を身につけることもできる学科です。文字情報だけでなくさまざまな文化情報が、地球規模で瞬時に送受信できる今日の高度情報化社会の中で、新学科には社会のニーズに応えることが期待されています。また、これまで25年間にわたって一学科体制できた国際政治経済学部も、現在新たな学科の

推進し、外国人留学生の新たなプログラムでの受け入れにも着手する予定にしております。世界を見渡すと、昨年はイギリスのEUからの離脱や、アメリカ第一主義を掲げるトランプ氏の大統領選挙勝利など、自国を優先する傾向が強まっています。加えてヨーロッパ各国では、移民や難民の排斥を訴える政党が支持を増やしていますし、日本国内でも一部でヘイトクライムなどが問題になってい

ます。こうした時代であるからこそ、是非世界を見て来て欲しいと思っております。そして、物事を冷静に見つめ、適切な判断をすることができるような力をつけて欲しいと願っています。

地区別父母懇談会アンケートについて

平成二十八年六月十二日(日)～平成二十八年七月三十一日(日)に行われた地区別父母懇談会でお寄せいただいたアンケートの中からご意見をいただいたものにつきまして、回答させていただきます。

Q. 奨学金は父母会では必要ないのでは。(国際政治経済学部学年不明)

A. 父母会の奨学金は、学生の勉強環境の支援を図るために、成長支援型奨学金を実施しています。具体的には、資格や能力取得育英型の奨学金です。ご理解をお願いいたします。

Q. 入学後に父母対象のオープンキャンパスがあればよい。(文学部一年)

A. 大学側に意見として要望します。

いろいろなご意見ありがとうございました。前向きに検討したいと思えます。
父母会長



あけましておめでとうございませす。

冬休みは、普段より家族で過ごす時間が多いお家もありだったかと思えます。初めは和やかな団欒も、お休みが長くなるうちにお子さんの至らなさが目につき、イライラしてつい口うるさくなってしまふなんていうこともあったかもしれません。少しぐらい家事をしない、もっと早く起きなさい、ちゃんと連絡しなさい：等々、気づいたら何度も同じことばかり言っていて、それなのに一向に改善されないということも。お子さんの至らなさにもそれぞれの事情があるのでしょうけれども、親御さんのお小言はたいして正しいものです。しかしせっかくの正しい教えも繰り返されるとお互いに苦しいばかりです。

家族の中には大小様々な問題が生じますが、家族間のコミュニケーションにはその家族特有の癖があるため、多くの場合、同じ対処法のパターンが繰り返されやすく、それでは問題を突破できないことがあります。そんなとき役に立つのが外部への相談です。当事

学
生
相
談
室

だ
よ
り
95

カウンセラー 森岡さやか

者ではないからこそ、繰り返されているパターンに気づき、新しいやり方を思いつくことが可能です。うちの家族のことよく知りたくないで：、私がこんなに努力してきたのに：と、家族のことを相談するときは疑心暗鬼になるのが普通です。私たちカウンセラーは、家族の事情やこれまでの苦労工夫を理解しようと努めますが、しかし全てを分かることはできません。それでもお役に立てるはずと思うのは、問題を抱えた家族にとつて必要なのは、いわゆる正解の対処法ではないからです。今が間違っているから問題が起こっているわけではありません。カウンセラーの役割は、やり方を直すことではなく、問題の渦中にいない分、そして心理の専門家である分だけ少し見つけやすい新しい発想を提供し、変化するきっかけを作ることなのです。





本年度も**10月29日(土)・30日(日)**に、

二松學舎大学学園祭「**創縁祭**」が開催されました。

父母会役員会では、無料休憩所（喫茶室）という形で毎年参加しています。演武、伝統芸能、演劇、模擬店、など学生たちのチームワークとアイデアの賜物をご覧ください。



父母会役員

創縁祭2016を終りに

学園祭実行委員会委員長

国文学科三年

平山 真実

平成二十八年十月二十九日(土)、三十日(日)に開催した創縁祭2016も無事に成功を収め、千八百人以上の方々にお越しいただきました。この来場者数は過去最多であり、このような結果を残すことができたのは本学父母会や松苓会、教職員の方々を始め、学内団体など多くの皆様にお力添えいただいたお蔭でございます。この場をお借りしてお礼申し上げます。誠に有難うございました。

今年の創縁祭は「星昇」というテーマを掲げました。これまでの二松學舎大学らしさや歴史ある伝統に加えて新しい要素を吸収し、二松學舎大学全体がより輝き、その魅力を発信していけたらという願いを込めました。また、創縁祭を通して互いに輝ける縁を皆様に創っていただけでしたら幸いと存じます。

次回も、創縁祭が関わった全ての方にとって素敵な縁を創る場であるように実行委員会一同精一杯努めてまいります。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。



1	言語文化研究会	日本語学
2	経営経済研究会	経営学
3	英語研究会	英語学
4	VOGUE研究会	ファッション
5	音楽部	音楽学
6	文学部	文学
7	環境文化研究会	環境学
8	写真部	写真学
9	GREEN WORKS	環境学
10	舞臺部	演劇学
11	学生自治会	学生自治
12	船舶研究会	船舶学
13	学生自治会 学生部	学生自治
14	学生自治会 生活部	学生自治
15	学生自治会 文化委員会	学生自治





キャリアセンターだより 45



本年四月に四年次生となる平成三十年三月卒業の学年にとっては、既に就職活動が開始しております。キャリアセンターとしても先月「就勝2018ガイドランス」と冠して、予想されているスケジュールや大学主催の支援行事について説明会を五日間開催しました。連日多くの学生の参加があり、意識が高まっていることを実感しました。

就職事情について幾つかの予測される事態を挙げますと、今年度の採用で内定者を確保できなかった企業や内定辞退者が多かった企業は、選考スケジュールを前後にスライドさ

せたり、複数回で実施するなど、横

並び採用が一層なくなり、各企業で試行錯誤の採用活動となることが考えられます。これに対応するには、就職活動を行う学生は三月までには準備を万端に整えておく必要があります。

そのために、本学では十二月から適時支援行事を開催しております。一月以降の講座等の一部をご紹介します。

『就職活動基礎理解講座』なにから手をつけたら良いかわからない、準備が遅れてしまったという学生用の準備講座(一月三十一日)

『魅力発見!自己分析講座』性格検査やグループワークを行い自己理解を深めます(二月三十一日)

『自分軸発見!自己確認講座』ペアワーク、グループワークを通じ、効果的に自己紹介ができるようになります(二月一日・八日・十三日)

『SPI対策講座初級編』非言語分野の初級から勉強できます(二月三日)

『SPI対策講座特訓編』三日間連続でSPIを攻略、テストセンター対策を実施します(二月六日・八日)

『論文文対策講座』論文文記述のポイントを理解、添削指導とフォローセミナーも行います(二月九日・二十一日)

『ES突破法講座』エントリーシートの意図を理解します(二月二十三日)

『履歴書書き方講座』大学指定履歴書の書き方や記入の極意(二月十四・二十七日)

その他にも、『マナー講座』『面

接対策講座』『グループディスカッション講座』等々多くの支援講座を準備し、学生に告知しております。

これらの総仕上げとして、『創縁会』(大学主催の合同企業説明会)を三月六日にはホテルグランドパレスを会場として開催するのを皮切りに、九段校舎で六日間開催いたします。

就職活動該当年次のご子女のご父母の皆様には、奮って参加するようお声掛けをお願いいたします。



野間ゼミナール

中国古代思想・哲学を志す者の集う研究室がある
 西楚霸王項羽を妄信するゼミ長を筆頭に、五行使い、ポジティブ、眠り姫、マシユマロン、イエーガー、稲田朋美友の会長、電波少女という愉快な仲間たちが『春秋左氏傳』を聖書とし、野間文史先生のご指導のもと、日夜修養に励んでいます。

授業經典の1つである『春秋左氏傳』は、漢・司馬遷『史記』に先立つ歴史書であります。野間ゼミでは、その詳細な注釈書である『春秋正義』を教材とし、学生が自ら根拠となる書物を探し出し、中国古典の常識を身に付け、漢文読解の力を習得することを目的としています。

野間ゼミ最大の特徴は卒業研究に無限の可能性がある、ということですね。ゼミの担当教授でいらっしやる野間先生はたいそう学識高く、教養深く、温厚で誠実なお人でありま

す。学者としても人としても素晴らしい、野間先生に勝る方はいらっしやらないのではないのでしょうか。

そんな野間先生は、本学で学んできた日々の中で学生自身が何に興味

「お団子ツアー」と銘打って文学散歩を行った。行き先は近場にしようというところで、上野を巡ることにした。そのため必然的に近現代文学が中心の文学散歩となった。なぜ「お団子」なのかという点、文学散歩もしながら先生おすすめの団子屋を巡ることを目的としていたからである。というより、それがメインであった（私的に）。普段から先生が教えて下さる甘味処はどこも美味しく、私もそれを頼りに訪れてみることもある。そんなところもこのゼミナールの魅力である。



多田ゼミナール

多田ゼミナールは、万葉集の研究などで知られる多田一臣先生のもとで、主に『日本国現報善悪霊異記』（以下『日本霊異記』）の研究を行うゼミナールである。ゼミナールでは基本的に、その中から好きな話の一つ選んで発表を行っている。『日本霊異記』とは現存する日本最古の仏教説話集である。成立は平安時代だが、内容から上代の人々の風俗などが読み取れることから、上代文学ゼミナール①である本ゼミで扱っている。

その他、イベントとして。三年次で行く夏合宿では、奈良県の飛鳥地方、山の辺の道や石舞台（写真はここ）を巡った。『日本霊異記』の他『万葉集』『古事記』など、上代文学を研究するには外せない場所である。そんな場所を多田先生の解説付きで巡ると考えるととても豪華なツアーである。昨年、一昨年と歩いて各所をまわっているが、最後まで元気なのはゼミ生よりも多田先生という、自分達の筋力低下を思い知らされる結果となっている。

四年では最近

「お団子ツアー」と銘打って文学散歩を行った。行き先は近場にしようというところで、上野を巡ることにした。そのため必然的に近現代文学が中心の文学散歩となった。なぜ「お団子」なのかという点、文学散歩もしながら先生おすすめの団子屋を巡ることを目的としていたからである。というより、それがメインであった（私的に）。普段から先生が教えて下さる甘味処はどこも美味しく、私もそれを頼りに訪れてみることもある。そんなところもこのゼミナールの魅力である。



ゼミ探訪

国文学科 四年 楠山 愛

平成二十八年度 国際交流年末懇親会



十一月二十六日(土)に、平成二十八年度国際交流年末懇親会を実施しました。アルカディア市ヶ谷(富士の間)に、留学生、教職員、父母会役員、本学国際交流サポーター学生など合計七〇名が集いました。

高野和基副学長からの開会の挨拶に続き、渡邊勝文父母会長から乾杯のご発声をいただき会が始まりました。

懇親会の途中で、同日の昼に開催された外国人留学生日本語スピーチコンテストの表彰式が行われました。一位の学長賞を受賞した台湾・中国文化大学からの交換留学生、孫季榆(そんきゆう)君が、再度、最優秀スピーチを披露し、大きな拍手に包まれました。

表彰式に引き続き、国際交流サポーター学生による企画として、出席者全員参加による楽しいクイズ大会が行われました。会場内には、日本で古くから楽しまれてきた遊戯(けん玉、福笑い、折り紙など)の紹介ブースが設置され、留学生のみならず多くの出席者が楽しんでいました。留学生達は、授業でお世話になっている先生方以外にも、普段接することのない父母会役員の方々や本学国際交流サポーター学生とも交流し、大いに盛り上がっていました。

最後に、塩田今日子国際交流センター長から、閉会の挨拶があり、盛況のうちに閉会となりました。

交流会の報告

父母会の助成により毎年度実施している交流会は、今年度も春と秋に一回ずつ実施しました。

春セメスターでは、六月二十五日(土)に水道橋の東京ドームシティにてボウリング大会を通じて交流会を実施しました。ボウリングをしたことがない留学生も多く、当初の予定を超える大人数での開催となりました。興味津々で集まった留学生に、まず最初に行われたボウリング玉の持ち方、投げ方から競技方法

の説明に続き、ぎこちなくゲームが始まりました。ゲームが進むにつれて、たまに出るストライクやスペアに大いに盛り上がる場面も見受けられました。交流会を通じて仲良くなった留学生同士は、連絡先の交換、お互いの自己紹介などを行い、親睦を深めることができました。

秋セメスターでは、十月二十三日(日)に埼玉県・川越方面へ日帰りのバスツアーを実施しました。留学生と日本人サポーター学生の合計三十三名が、「小江戸」として人気の川越を訪れ、日本伝統の調味料である「醤油」工

場の見学、ガラス細工作体験、小江戸散策などを通じ、楽しみながら日本文化体験と国際交流を行うことができました。日本文化への理解を深めることはもとより、留学生同士の繋がりも強まり、実のある交流会となりました。



派遣留学生の声

平成二十七年派遣留学生として、中国の北京大学に派遣された破魔仁美さんに留学生活の思い出、また平成二十八年年度交換留学生の孫季榆さんから日本での大学生活について綴っていただきました。

勉強よりも大切なもの



文学部
中国文学科 4年

破魔仁美

私は二松学舎に入學する前から、北京大學への留學を考えていたので、なんの迷いもなく交換留學プログラムに応募しました。北京には行ったこともなく、現地に知り合いも居ませんでした。しかし私は、これから一人でやっていけるかどうかの不安よりも、中国の文化を身近に感じながら暮らせる楽しみの方が圧倒的に強かったです。

実際に、中国の文化だけでなく、私は色々な国の文化に触れる事ができました。例えば、私のクラスには、オーストラリア人やフランス人、南アフリカ人やロシア人もいました。私たちは毎日のように一緒に中国語の授業を受け、休み時間には自分たちの文化や習慣について話したり、情報を交換したり、言語をお互いに教えてたり、休みの日はよくみんなで遊びに行きました。私は同じクラスのオーストラリアの女の子と特に仲が良く、彼女が帰国した後、シドニーまで会いに行き

ました。異文化に触れる事はとても大事な事、視野が広がり、考え方も変わり、自分が今まで当たり前だと思っていた事が、国を変えれば、全然そうじゃない事がわかるようになりました。

留學はただ外国に行つて勉強をしたり、単位を取つたりするだけでなく、その場所でのしか出会えないような人や、その場所でのしか出来ないような事を大切に、自分を鍛え、自分を成長させるいい機会だと私は思います。特に北京大學は人数が多いので、先生は面倒を見てくれません。全ての事を自分でやらないといけない、大変思うに思ふかもしれないですが、それがみんな出来るようになるんです。自分が強くなります。

私は一年間の留學を経て、たくさん思い出とたくさんさんの友達とたくさん間の経験を得て、一年間があつたという間に感じました。本音を言うとなんか留學の期間を延長したいぐらい北京大學が好きでした。留學は行けるうちにいったほうがいいです。行けるチャンスがあるなら、それを無駄にしないでください。

風が吹くこの町



中国文化大學 (台湾)

孫季榆

二〇二六年
九月八日、私は再び、ここに来ました。再びというより、初めての方がいいかもしれません。ここは日本、私が憧れていた

る国。日本に来るのは、今回は三回目ですが、前二回は関西しか来てませんでした。今日は初めてです。私は今日から、一年間一人暮らしを始めます。知らない町、知らない人、知らない生活。初めて一人暮らしするのは少し緊張しますけど、期待という気持ちの方が強いです。

風が吹いているこの町、私はここで息をしています。ここに来てもう五か月、生活にも大分慣れましたけれど、私の国と違っているとちょっと少なくて、電車、よく電車です。サラリーマンと学生の姿が見えませんが、人が多くて、車内が込んでいます。結構あります。初詣、日本しかない風習。友達と一緒に浅草寺に行きました。人数の多さに驚かされました。建物、一戸建ての家が多

い、少なくとも私が住んでいるところはそうではありません。道、静かで穏やかな感じ、時々野良猫の姿が見えます、私は好きです。

私にとつては、ここに来てから、何もかも新鮮な感じがします。しかし、こんな生活はいつまでも続けないわけではありません。八月末、私の留學が終わる時です。残りわずかの七か月間、私はどこまで行けるのか、何が出来るのか、私にもわかりません。次に来る機会があるかどうかとも知りません。ですから私はできる限り、この目で、もつとこの国を見たい、もつとこの国のことを知りたいです。そうすれば、きっと何かが出来上がるだろう。そう、言葉が表現できない物。

一月、少し寒い季節。もう少しで桜が咲く季節。桜、優雅で可憐な乙女のような桜、私は好きです。桜が咲いているこの国、私は好きです。ですから、この国に来てからも大切な大事なことを今を抱きしめて、離さずに、胸の中の片隅に置きたいです。一月、少し寒い季節。もう少しで桜が咲く季節。風が吹いているこの町、私はここで息をしています。

卒業パーティーの開催について

父母会では、卒業生の皆

【会場】

さんのご卒業を祝し、また、

ホテルグランドパレス

在学中お世話になった教職

二階ダイヤモンドルーム

員の皆様への感謝の気持ち

〒100-2100七二

を込めて、卒業パーティー

東京都千代田区飯田橋

を開催しています。卒業生

一〇一〇一

の皆さんは是非ご出席願

本学九段キャンパスより

います。卒業パーティーの内

【次第】

徒歩十二分

容は次のとおりです。

一. 開会

【日時】

平成二十九年

二. 挨拶

三月十六日(木)

三. 乾杯

午後三時から五時

四. 歓談・ゼミ写真撮影

五. 閉会

○歓談の時間を利用して、

ゼミ毎の集合写真撮影

を設けています。時間

に制約がありますので、

あらかじめ撮影順番を

決めておきます。

ご協力ください。

○卒業生の皆さんには「リ

ボン」を必ず着用して

いただきます。「リボン」

は卒業式当日配布しま

す。



編集後記

ご父母の皆さま

あけましておめでとうございます。

新しい年が素晴らしい一年となり

ますよう、ご健康とご多幸を心より

お祈り申し上げます。

今年、二松學舎大学は創立百四十

周年。また、本学にゆかりのある

夏目漱石生誕、百五十年という節目

の年を迎えます。私たちは、記念す

べき年に父母会で活動ができること

を光栄に思っています。

さて、父母会活動の一環として

「創緑祭」では、無料の休憩所を設

け期間中延べ二五十名を超える方々

に、お立ち寄りいただきました。窓

から見渡すキャンパスライフ周辺の

眺望を、お飲物とお菓子をお召し上

がり頂きながら、今秋の「創緑祭」

でも、おくつろぎ頂ければと思っ

ています。

また、今年度三回目となる「父母

会成長支援型奨学金制度」は二十三

名の申請がありました。指定した資

格取得者を対象に募集しますので、次

回のご応募もお待ちしております。

そして、今年度もご卒業を祝し

「卒業パーティー」を開催いたしま

す。在学中お世話になった教職員の

先生方と思い出を語り合い、素晴ら

しい会となりますよう、卒業生の皆

さんのご出席をお待ちしています。

大学の講義を受講してみませんか

二松學舎大学には、科目等履修生制度があり、大学の授業を広く一般の皆様にご開講しています。科目等履修生制度とは、大学で開講している授業科目(一々数科目)を学生と一緒に受講し単位も取得できる制度です。

措置を講じております。この機会に是非お子さんと一緒に大学の授業を受けられることをお勧め致します。内容は、次の通りです。

■科目等履修科

一科目 通年科目 三万円

半期科目 一万五千円

■問い合わせ先

二松學舎大学教務課

〇三(三三二六)七四〇六

■公開科目

学部・大学院で開講している授業

科目のうち、原則として演習科目を

除く授業科目を公開いたします。

■募集要項

平成二十九年度の募集要項についてのお問い合わせは、二月になりましたからお願いします。

